

校長室より

第72号

「天空高き」



平成27年6月4日

県高校総体 叶えたい夢がある今、仲間と共にかけあがれ！

気温が25度を越え連日の厳しい夏日の下、高校3年生にとって最後の大会となる、総体県予選会が、県内各地域で開催されています。

30日(土)には周南市総合スポーツセンターで柔道の団体戦が行われました。

予選を無難に勝ち抜き、決勝の相手は、予選を圧倒的な力の差で勝ち上がり、3連覇中の高川学園です。

先鋒、次鋒の善戦むなしく2連敗。崖っぷちに立たされ、重圧のかかる中堅戦は主将の赤尾君。

見事な一本勝ちで、これで息の吹き返した高水は、副将戦で埜村君が勝利をもぎ取り、大将戦でも山本君が体の大きな相手にひるむことなく、堂々と立ち向かい、技ありを奪って4年ぶりの優勝を決めました。

手に汗を握る大接戦で、私も興奮で身体が震えましたが、保護者やOBの方々はそれ以上の喜びだったでしょう。本当におめでとうございます。

1日は女子ハンドボールの決勝戦が、岩国市総合体育館でありました。相手は華陵高校でしたが、この試合も一進一退の大接戦でしたが、どうにか1点差で昨年に引き続き、全国の切符を手に入れました。

その他、団体戦では空手部女子が団体組手で6年ぶりに優勝しました。今年のインターハイは近畿地区です。更なる飛躍を期待しています。

また、残念ながら目標を達成できなかった選手の皆さん。お疲れ様でした。3年生の皆さんは3年間の部活動で得た貴重な経験を、次の進路に向けて活かしてもらいたいと思います。今回の団体競技成績は以下の通りです。



団体競技成績

優勝：男子柔道部・女子ハンドボール部・女子空手団体組手

2位：女子水泳部・男子空手組手・女子空手形

3位：男子空手形・男子水泳部

生活習慣を改善する 一学力の向上に向けて一

まず、右の生活習慣改善の8か条を声に出して読んでください。

誰もができることだと思います。

私も実行しています。皆さんにとって難しいと思うのは、6番目の、「スマホやインターネットは1日1時間以内」だと思います。しかし、この8か条を続けるだけで、学力が向上します。

まず、3ヶ月、私を信用して実行してください。そして、その報告を私にしてください。3ヶ月後の「天空高き」を楽しみに待ってください。

生活習慣改善8か条

1. 朝食をしっかりとる
2. 毎朝、排便をする
3. 遅刻をしない
4. 学校で居眠りをしない
5. 体をよく動かす
6. スマホやインターネットは1日1時間以内
7. 風呂で湯船につかる
8. 7時間しっかり寝る

21世紀を生き抜く力ー中・高で大事なことー

中間考査の2日目の午後に、我々教職員は、講師を招いて教員研修をしました。

講師は、(株)リクルートマーケティングパートナーズの林健一氏で、「社会人として必要な力をいかに育てるか～企業で求められる力とは～」というタイトルでの研修でした。

その中で、中学・高校で取り組むこととして、しっかり勉強や部活動・学校行事に励むことで、将来に役立つ力が身につくと力説されていました。

勉強や部活動・学校行事に取り組む時のポイントとして、4点挙げられました。



- 1つ目は、「自分だったらどうするか?」ということ念頭に置いて、主体的に考える。
- 2つ目は、多様な意見に耳を傾ける。
- 3つ目は、最後まで諦めずにやり抜く。
- 4つ目は、「なぜ?」という課題意識を持ち、探求すること。

こういった経験を積み重ねることで、“社会で必要な力”を身につけることができるそうです。皆さんにとって、決して難しいことではないと思います。

5つの心掛け 近藤 宣之

1. いつも明るくニコニコと笑顔を絶やさないこと。
2. いつも感謝すること。
3. 昨日よりきょう、きょうより明日と成長すること。
4. 絶対に人のせいにはしないこと。
5. 身の回りに起こることは必然と考え、すべて受け入れること。

ちょっとためになる話—お手伝い 2500 回にチャレンジ—

福井県のある大学受験を控えた高校生。

この生徒は「チャレンジカップ」という全国の小学生から高校生約 1 万 6000 人がエントリーし、「半年間自分が決めた目標にトライする」という大会に参加しました。

彼が掲げたチャレンジとは、「家族の手伝いをする事」「え？そんなことで全国優勝？」と思った人もいるかもしれませんね。

彼は、家族の手伝いをするチャレンジにエントリーし、「5,000 回」という目標設定をしました。

毎日、手伝いをした回数を手帳に記録し続けるも、途中で「5,000 回」という回数は現実的な数字ではないことに気づきます。

それで、半分の 2,500 回にゴールを再設定した彼ですが、それでも 1 か月で 500 回、1 日平均 16 回お手伝いをする計算になります。

彼が実行した手伝いは、「6時半に起きて家族を起こすこと。朝食を配膳したり、目玉焼きを作ったりすること。布団をたたんで家の整理をしてから登校すること。部活が終わって母親と合流して、一緒に買い物をする事。食後の皿洗いをして、洗濯をして、干して、さらに干してあった洗濯物をたたむこと」でした。

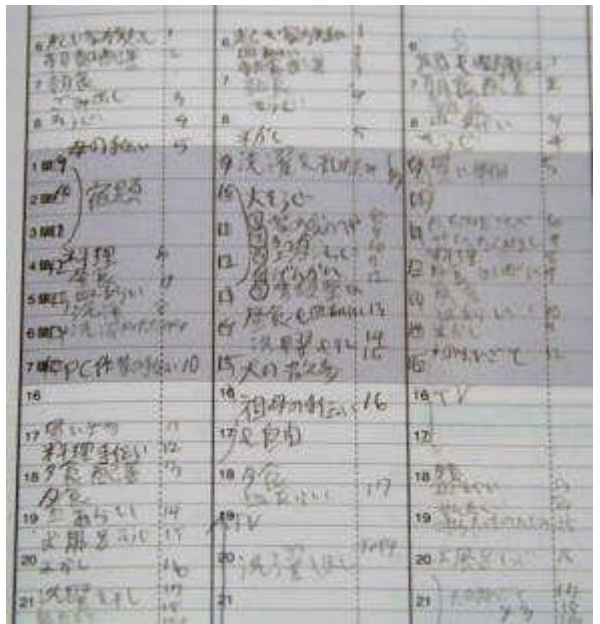
毎日 22 時までお手伝いをして、それから宿題をすると、毎日寝るのは 24 時。

毎日毎日、5 か月間にわたってお手伝いを続けることは、容易ではなかったと思います。しかし彼は「このチャレンジはただのお手伝いではない。自分の転換点になる、人生の選択の時なんだ」という思いで、自分に負けることなくやりきることができました。

結果は、2,511 回。チャレンジを達成した彼は、こう変わったと言います。

「ありがとうと言われたい」という気持ちから「ありがとうと言いたい」という気持ちに変化したこと。家族以外の人に対しても、「何か困っていることはないか」と考える意識が強くなったこと。

「おばあちゃん、たくさんの家事をしてくれてありがとう」。「おじいちゃん、僕たちの生活を支えてくれてありがとう」。「会場にいるお母さん、たくさん苦勞をかけてる



けど、ここまで育ててくれてありがとう」

今の彼があるのは、周りの支え、特に家族のお陰であることが、手伝いを通して見えてきたのですね。

ぼくのためもの

神栖市立軽野東小1年 仲本哲

ママがなつやすみのかだいをみて、「わがやのだからものってなんだとおもう。」とききました。ぼくは、「おかね」とこたえました。なんでもかえるからです。

かぞくみんなにききました。すると、おじいちゃんもおばあちゃんも、パパも、ママもみんな「ものじゃないけど（ささる）かな。」

といいました。なんでぼくなのかな。にんきものすぎても、こまるんだけどなあ、とおもいました。

ぼくはパパやママによくおこられたりします。でも、しょうじょうをもらったときは、「がんばったね。」とみんなでいっぱいほめてくれました。

ぼくがびょうきになったときは、なおつてもしんぱいしてくれて、うるさいくらい「だいじょうぶか。」ときいてくれます。

いろいろなところにつれていってくれたり、あそんでくれます。

ぼくは、かぞくみんなに、だいじにされているとおもいました。やっぱりぼくのためものは、ぼくのかぞくです。

コーヒーフレイクー白色チョークで富士山ー

学校内の黒板をキャンバスにしてイラストを描く「黒板アート甲子園プレ大会」(日学主催)で、茨城県の高校3年生(有働宗一郎さん)の作品が特別賞を受賞しました。

放課後、白色チョーク1本で、2時間程度かけて描いたそうです。

黒板の下地が暗いので、白を強調して光を表現するのが難しかったそうです。

皆さんもチャレンジしてみても・・・。



二十四節気 『芒種』(ぼうしゅ) 6月6日頃
麦を収穫し、田植えを始める時期。まもなく「入梅(にゅうばい)6月11日頃」です。芒(のぎ)は、麦や稲などの穀物の先にある針のような毛のことで、「芒種」とは、麦を収穫し、「のぎ」のある穀物の種を播いたり、稲の苗を植え付ける時期のことを意味しています。

【出典：ちょっと便利帳】

